

# I O D Pに関する広報活動の現状

## ～IODP&“ちきゅう”広報、普及展開計画案中間報告～

平成16年8月9日  
日本地球掘削科学コンソーシアム  
海洋研究開発機構地球深部探査センター

### I. IODP&“ちきゅう”広報、普及展開計画の要旨

### II. 現状報告

- II-1. インターネットを用いた広報戦術実施状況報告
- II-2. 起爆剤の活用計画実施状況報告
- II-3. 中央管理組織 IODP-MI (IODP国際計画管理法人)を中心とする国際の現状

### III. 今後の方針

#### 添付資料

1. インターネット及び起爆剤の活用計画（図表）
2. ワークショップ＆イベントの開催日程表
3. 平成16年度活動スケジュール
4. 関連写真
5. 「I O D P大学&科学館キャンペーン」新聞記事（下野新聞）
6. 「Juan de Fuca乗船研究者」新聞記事（京都地方各紙）

## I. IODP& “ちきゅう” 広報、普及展開計画の要旨

### 1. 目的

統合国際深海掘削計画（IODP）の意義及び科学研究成果の広報・普及活動を通じ、国民各層の IODP に対する認知度を高める。よって、地球科学、生命科学及び海洋科学に関する国民個人の関心を喚起するとともに、広報主体と対象（国民）との双方向コミュニケーションを用いることによって、国民と一緒にしたプロジェクトの推進体制を構築することを目的とする。

### 2. 戦略（スローガン）

(1) 「ちきゅう」を超一流科学研究所とする。

（一流研究者が集い、地球科学、生命科学などに関する最先端の研究が行われる拠点とする。）

(2) 「ちきゅう」を先端技術開発研究所とする。

（科学掘削船の運用及び科学的研究に関する先端科学技術を開発・試験・実用化する拠点とする。）

(3) 「ちきゅう」を生涯学習教室にする。

（国民各層に対応した教育素材を提供し、科学への好奇心が喚起されるような学習の場とする。）

(4) 「ちきゅう」を情報エンターテイメント生産工場にする。

（特殊船である「ちきゅう」そのもの及び「ちきゅう」によってもたらされる科学成果を、エンターテイメントへ応用し、常に新しいアイデア及びニュースソースを提供する場とする。）

### 3. 戦 術

インターネットを広報戦術の核とし、発信元が主体的に情報を提供でき、かつ国民が能動的に IODP 及び「ちきゅう」の知識を取得できる体制を構築する。また、国民が能動的に情報を取得する動機付けを行うために、マスメディア、各種イベント等（起爆剤）を活用する。

#### 3-1. インターネットを戦術の核とする意味

インターネットを戦術の核とするのは、下記のような利点があり、最も効果的に目的を遂行出来る可能性があるからである。

- 主体性：従来のマスメディアによる受動的な情報入手方法とは異なり、情報の発信者・受信者ともに主体として本プロジェクト（IODP）と関係が持てること。
- 迅速性：紙の出版物による情報と異なり、原稿が揃った時点ですぐに IODP 及び「ちきゅう」に関する情報を発信することができ、受信者がその情報を取得できること。
- 簡易性：国民個人の都合にあわせて（時間、場所の制限がなく）自由に情報を入手できること。
- 国際性：Web 制作技術が世界共通であること（言語の違いという問題はある）。

#### 3-2. 起爆剤を活用する意義

国民が能動的に（主にインターネットを通じて）情報を収集しようとする“動機付け”をすることが起爆剤の意義である。

国民各対象へ向けて以下の3つの起爆剤が必要である。

- 1) イベントの開催（例：ちきゅう一般公開）：（対象）IODPに対する関心の薄い国民層
- 2) マスメディアを通しての普及広報：（対象）国民全体
- 3) 各教育機関及び関連学会における普及広報活動（ポスター、各種模型、実物展示、パンフレット、冊子等の配布及び講演）  
：（対象）学生、教育者、研究者、関係者

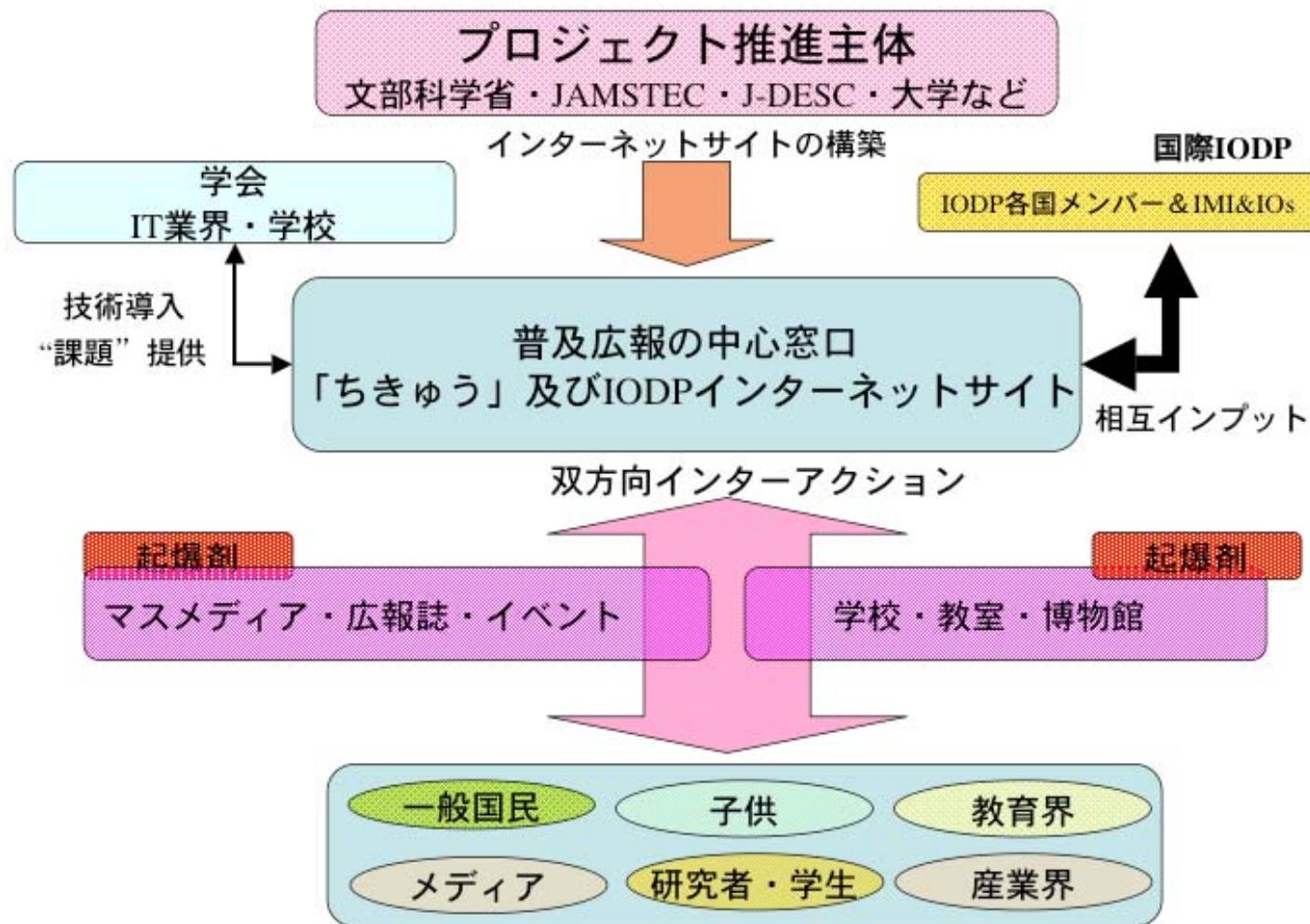


図 1

## II. 現状報告

### II-1.インターネットを用いた広報戦術案実施状況報告

Web の改良進捗状況（～7月）：

1) Web 改造についての方針策定（4月）：

+ 現状での利便性のみならず将来（“ちきゅう”のオペレーションが開始された後）を見据えて使い勝手の良い Web を制作する。

- 各コンテンツがどの対象層に向けて発信しているのかを明確にする。
- まず、普遍的な情報（“ちきゅう”や “IODP”に関する部分）の構築から取り組む。
- 情報を系統的に整理できるように、Web 基本構成を決定

+ IODP の国際性を考慮し、日本のインターネット状況（回線速度等）を考慮にいれるだけでなく、世界中の国で web を閲覧する人が不都合無く情報を手に入れる事が出来る様に配慮し web コンテンツを制作する。

2) 既存 Web 全体の現状分析（5月～6月）：

+ 既存項目を全てレビューし、Web の何処にどのような情報があるのか、またどのような情報が不足しているかの把握。

+ Web 掲載項目を再構築と同時に、Web 運用環境（Web 認知促進、Web 更新頻度アップ、Web アドレスの短縮 etc.）についての検討が必要。→ 現状では、各配布物／ポスターなどへの Web アドレスの積極的な掲載を行っている。

3) 再構築作業の現状（7月～8月）

+ トップページレイアウト・デザイン／トップページ以下の階層のレイアウト・デザイン制作。

+ 新規掲載原稿の収集。

+ 8月下旬よりテストサーバに原稿を順次アップ予定

4) 再構築 Web 外部公開予定日程

+ 平成 16 年 10 月中旬

## II-2. 起爆剤の活用計画案実施状況報告

起爆剤として、各学会への参加、及びイベント（例：IODP 大学＆科学館キャンペーン）を積極的に実施している。

各学会においては、対象を国内外の研究者・大学院生（若手研究者）とし、ワークショップ・タウンミーティングの開催や、展示ブースにおける IODP 説明用パネル、広報ビデオ、パンフレットを利用した来訪者への直接説明を実施している。

また、イベントの中心として、IODP 大学＆科学館キャンペーンを各地で開催し、J-DESC 加盟大学を通した地域における IODP の普及、及び地元科学館・博物館を通した一般国民（特に小中高生）への広報に力を入れている。大学キャンペーンでは、大学生・院生向けとして、乗船研究者への道筋を具体的に説明する講演会と展示説明会を実施している。博物館キャンペーン（一般向け）では、「ちきゅう」の 1/100 模型を中心に平易な内容の展示をし、併せてクイズ大会を盛り込んだイベントを実施している。さらに、地方メディアでの出演・掲載を通じた広報活動を実施している。

平成 16 年 7 月末までに、地球惑星科学関連学会合同大会及び Asia Oceania Geoscience Society（シンガポール）に参加（今後年度末までに約 4 学会に参加予定）。また、IODP 大学＆科学館キャンペーンは、九州大学・北九州市立自然史・歴史博物館でのキャンペーンを皮切りに、現在までに 3 回実施済みである。

また、8 月 10 日（火）より約 1 週間、国立科学博物館にて今年度最大規模の「IODP 科学館キャンペーン」を行う予定（講演は 8 月 14 日（土））。

## II-3. 中央管理組織 IODP-MI（IODP 国際計画管理法人）を中心とする国際の現状

本年 4 月より、中央管理組織 IODP-MI（IODP 国際計画管理法人）が本格的に活動を開始した。5 月 17, 18 日にワシントン D.C.において第 1 回 Education/Outreach タスクフォース会合が開催され、下記の方針が確認された。現在、IODP-MI と各参加国の教育、普及広報における役割分担を検討中。

- 1) 教育については、各国による制度の違いが大きいため、IODP-MI は情報管理を担当し、各国はその共有情報をもとに教材の作成等を行う。
- 2) 学会に対する普及広報活動は、国際、地域、国別を明確にし、それぞれ a) IODP-MI 主催、b) IODP-MI 協賛、c) 国別、とし担当を分担する。

常に、IODP : Integrated（統合）を意識してブース展示等の共通イメージ化を図る。現在、IODP-MI は AGU で広報活動を行うこととしているが、我が国の地球惑星科学関連合同大会でも IODP-MI が広報活動を行うよう、J-DESC が中心となって働きかけている。

### III. 今後の方針

#### 【インターネット】

個人の Web へのアクセスは、個人の主体性／能動的行動に依存する。現状までのアンケートなど各種報告によると、CDEX Web へのアクセス数が低いことが伺える。よって、個人の CDEXWeb へのアクセスを向上させるためには、起爆剤にて IODP の認知を促進すると同時に、Web 自体の認知を促進する必要がある。

よって、今後以下 Web アドレス認知促進策を実施する予定。

1. 各配布物／ポスターなどへの Web アドレスの積極的な記入
2. 各起爆剤（イベント／学会展示ブース）にての Web デモンストレーション
3. イベント／学会展示ブースにての Web アドレス記載カードの配布
4. Web アドレスを覚えやすいものに変更
5. 検索エンジンにてヒットしやすい Web 構成の構築

#### 【起爆剤】

IODP 大学＆科学館キャンペーンの参加者アンケートをはじめとする各種報告から、これまで「IODP」や「ちきゅう」の認知度がきわめて低かったことが伺える。国民の理解と協力を醸成する観点、あるいは若手研究者を育成する観点からも、一層広報に力を注いでゆく必要がある。

（同時に、納税者に対し納得のいく能動的、且つ丁寧な科学計画・目標の説明が必要。）

##### ○一般国民対象認知促進策

一般国民に対する認知のさらなる促進を目指すため、IODP 大学＆科学館キャンペーンなどのイベントを活用する。（また、マスメディアを利用し、マスメディアへ IODP という素材の提供を適宜行うことにより、一般国民への効果的・好意的な浸透を図る。）

##### ○研究者対象認知促進策

乗船研究者を含めた IODP 参加者を増やすことが、現在の緊急の課題である。そのため、日本の地球科学関連学会の中において最大規模である地球惑星科学関連学会合同大会を、日本における IODP の普及広報を行う場として最も重要なものと位置づけ、本大会を積極的に活用する。特に本学会の国際的認知を上げるため国内外に向け積極的な PR 活動を行う。

また、IODP 大学＆科学館キャンペーンを利用し、地方への普及広報活動を促進する。将来的に、全国に複数の IODP 研究拠点を作り、日本の IODP 関連研究活動の拡充を目指す。

### ○IODP 関係者

関係者間の「IODP は日本が主導である」という意識を高めるため、日本が建造した世界最大の科学掘削船である「ちきゅう」実物を積極的に活用する。

添付資料 1

インターネット及び起爆剤の活用計画

年度 ちきゅう	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
		一般公開 「ちきゅう」本船の活用	運用開始								
Web	Web改造期間 (Phase1) Phase 1-1. 全体構成変更 Phase 1-2. 本格稼働への準備			Web本格稼働 - 「ちきゅう」と国民をつなぐ唯一の媒體として - (Phase 2)							
起爆剤の種類				認知系起爆剤							
				教育系起爆剤							
				エンターテイメント系起爆剤							
起爆剤の対象	第1次層 研究者・乗船者層の認知の拡大 教育者（先生、学芸員） 地質科学関連研究者 学生（高校生、大学生）	第2次層 国民のIODP及び「ちきゅう」に関する認知の拡大 コアなサポーターの確保 若年層（小学生、中学生） 科学・船に興味のある一般国民 その他関連研究者	第3次層 サポーターの確保 一般国民	「ちきゅう」関連情報取得 に対する国民の能動的行動の増加							

添付資料 2

【学会等での活動・ワークショップの開催】

対象：一般研究者・大学院生（若手研究者）・海外のIODP関連研究者

素材：研究者向け展示パネル・研究者向けパンフレット・広報VTR 等

目的：IODP関連研究の推進・IODPプロポーザルの育成・IODP乗船研究者の確保 等

開催日	催し	主催・出展団体等	開催場所	参加者数
3月30日	「A new science creating by IODP in Asian Waters」国際ワークショップ	JAMSTEC・J-DESC・AESTO 共催 MEXT後援	JAMSTEC 横浜研究所	74名 (日本・中国・台湾・韓国・ベトナム)
5月10日 ～13日	地球惑星科学関連学会2004年合同大会 IODP関連ブース展示・解説 J-DESCタウンミーティングの実施	JAMSTEC (J-DESC解説協力) J-DESC	幕張	約700人 約70名
7月5日 ～9日	「Asia Oceania Geosciences Society」 IODP関連ブース展示・解説 J-DESCタウンミーティングの実施	JAMSTEC J-DESC	シンガポール	約760名 約30名
8月17日 ～19日	「Western Pacific Geophysics Meeting」 IODP関連ブース展示・解説	JAMSTEC (J-DESC解説協力)	ハワイ	
9月17日 ～20日	日本地質学会第111年学術大会 IODP関連ブース展示・解説 J-DESCタウンミーティングの実施 (陸上掘削を含む)	JAMSTEC・J-DESC J-DESC	千葉	
11月9日～ 11月12日	「OCEANS '04」 IODP関連ブース展示・解説	JAMSTEC	神戸	
12月13日 ～17日	「American Geophysical Union」2004秋季大会 ブース展示、タウンミーティング等検討中	JAMSTEC・J-DESC	サンフランシスコ	

### 【IODP大学＆科学館キャンペーン】

対象：一般研究者・大学院生（若手研究者）および一般（小学生～父兄・一般）

素材：（大学向け）研究者向け展示パネル・研究者向けパンフレット・広報VTR 等

（一般向け）一般向け展示パネル・子供向け“ちきゅう”パンフレット・“ちきゅう”模型・広報VTR・広報グッズ・ポスター  
一 等

目的：（大学向け）IODP研究航海の乗船研究者の確保とIODP科学コミュニティーを支える人材の育成。

（一般向け）広く一般国民、特に将来の我が国の科学界を支えることが期待される小・中・高校生に対し、IODPに対する理解を求める。

IODPを通じ、科学館と大学との協力関係を構築する。

主催：海洋研究開発機構・日本地球掘削科学コンソーシアム 後援：文部科学省（開催ごとに申請） 協賛・協力：各開催地（大学・科学館等）

	開催日	催し（開催場所）	動員数
第1回	4月16日	（大学向け講演会）九州大学	約 100名
	4月17日	（一般向けイベント）北九州市立自然史・歴史博物館	約 150名
第2回	5月30日	（一般向けイベント）栃木県立博物館	約 90名
	5月31日	（大学向け講演会）宇都宮大学	約 200名
	5月30日～6月15日	（一般向け展示）栃木県立博物館	約 6100名（期間中入場者）
番外編	7月31日～8月1日	「青少年のための科学の祭典松本大会」に出展（@信州大学） 一般向けブース・イベントを実施	
番外編	8月10日～15日	国立科学博物館「2004夏休みサイエンススクエア」に出展 一般向けブース展示・子供向けイベントを実施	
第3回	10月16日	（一般向けイベント）山形県産業科学館	
	10月17日	（大学向け講演会）山形大学	
	10月16日～24日	（一般向け展示）山形県産業科学館	
第4回	10月30日	（高校生対象講演会）大阪府立岸和田高等学校	
	10月31日	（一般向けイベント）大阪市立自然史博物館	
	10月30日～11月7日	（一般向け展示）大阪市立自然史博物館	

番外編	11月6日	専修大学公開講座・講演会にてIODPに関する 大学生・一般向け普及講演（@川崎）	
第5回	12月4日	(大学向け講演会) 岡山理科大学	
	12月5日	(一般向けイベント) RSKメディアコム	
	12月4日～12日	(一般向け展示) RSKメディアコム 倉敷市立自然史博物館（同時開催）	
第6回 以降	平成17年4月29日	(大学向け講演会) 新潟大学	
	4月下旬～5月上旬	(一般向けイベント) 新潟県立自然科学館	
実施時期調整中		沖縄（琉球大学）・富山（富山大学）・島根（島根大学） 等	

【その他の広報関連活動】

開催日	催し 等	備考
3月12日	IODPに関する広報活動への提言	第3回深海掘削委員会
3月27日	おもしろ地球塾・長崎	子供向けイベント（「ちきゅう」見学など） 日本郵船・三菱重工業主催 約100名参加
6月14日	IODP Juan de Fuca 航海乗船研究者プレス発表	文部科学省
5月31日	日本科学未来館毛利館長「ちきゅう」視察	地元新聞記事に掲載・NHKで放映
7月 日	IODP Arctic Coring Expedition 航海乗船研究者プレス発表	
8月22日	2004関東学院大学ふれあい祭りで広報活動	@横浜市金沢区
12月10日	埼玉県高校地学教員の研究会にてIODPに関する普及講演	
6月	地球深部探査船「ちきゅう」お披露目	海洋研究開発機構主催
その他随時	IODP航海乗船研究者プレス発表	文部科学省

添付資料3

平成16年度活動スケジュール

	実施時期	2004年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2005年 1月	2月	3月	4月
主 体	「ちきゅう」						建造								引渡し
	WEB トピック	Web 再構築作業				再構築 Web 外部公開				再構築後 Web 定期メンテナンス 「ちきゅう」お披露目へ向けて Web 上での告知					
起 爆 剤	マスコミ テレビ ラジオ				交渉			10月中旬 ON AIR 紹介番組				ON AIR 特集番組			
	新聞 雑誌							取材					掲載		特集
	イベント		大科 CP @九州	大科 CP @栃木	科学の祭 典@信州	サイエン ススクエ ア@国立 科博		大科 CP @山形 &大阪	専修大 学にて 講演	大科 CP @岡山					
	学会			惑星学 会		AOGS@ Singapore	WPGM@ Hawaii	地質・地震学会		Oceans '04 @ 神戸	AGU (USA)				

大科 CP : IODP 大学 & 科学館キャンペーン

添付資料 4



IODP解説展示（第2回IODP大学&科学館キャンペーン；栃木県立博物館）

このような「展示セット」を各地に持ちまわり、広報活動を展開している。



IODP普及活動（第2回 IODP大学&科学館キャンペーン；宇都宮大学）



地球深部探査船「ちきゅう」の模型を熱心に見る子どもたち=30日午後2時45分、県立博物館

## 県立博物館に模型

地球深部探査は日米欧が協力。「ちきゅう」は百十人程のやぐらを組み、ドリルで海底下約七千㍍の深さまで掘ることを目指す。約二億年前までの地球の歴史や、地震が起きる場所の仕組み、海底の地層の奥深くに生きる微生物などを調べることが目的だ。

長崎県の造船所で建築中

## 国内初の展示

で、「ちきゅう」の模型の展示が三月から、県立博物館で始まった。国内初の展示で、海洋研究開発機構の研究者による講演会も行われた。

三十一年は、専門的な講演会が宇都宮大学会館で行われる。展示は六月十五日まで。

## 地球深部探査船を“調査”

で、二〇〇六年度に初航海し、二〇〇七年度に本格稼働する予定だ。同機構の真砂英樹博士は「人類で初めてマントルを掘りたい」と夢のチャレンジに意欲を見せていく。

# 下野新聞 しもつけ

第41525号  
2004年(平成16年)  
5月31日(月曜日)

栃木県立博物館でのイベントの紹介記事

### 第2回IODP大学&科学館キャンペーン

共催 海洋研究開発機構・日本地球掘削科学コンソーシアム

後援 文部科学省  
協賛 宇都宮大学・栃木県立博物館

6月15日 火曜日

日本など十五カ国が参加し、最近注目されている地殻内生命の探求や、地球環境変動の解明を目指す国際研究プロジェクト「統合国際深海掘削計画(IODP)」の初の研究航海が二十七日から東太平洋・ファンテフーク海域で始まる。

初の航海には、日本人八人を含む各国の研究者二十四人が参加。米の海洋科学掘削船を使用し、カナダ・バンクーバー沖に発達する海底火山の地

輪部(水深二、六〇〇メートル)を約二ヶ月かけ、最長八六〇メートル掘削する。オスモサンブラーと呼ばれる観測装置で地殻内の熱水の循環を探るほか、熱水を

採取して微生物を調べる。京都大からは、海洋微生物の生態を研究する左子芳彦・農学研究科教授が、原生地球

の研究室が参加。熱水に最初に現れた生命とい

生息すると予測される超好熱菌などを調べ、生命的起源の探究につなげる。

左子教授は「原始地球の地下に生息し、生物の起源とも言われる「好熱菌」などを調べる。IODPは昨年10月に10年計画でスタート。08年度には日本の海洋探査船「おきゅう」を投入、水深4,000メートルの海底から更に7,000メートルのマントル層まで調査する。

ある微生物を調べる。

左子教授ら日本人研究者8人が、米国の深海掘削船「ジョイ・アレスレブリューション号」に乗り込む。カナダ沖の太平洋の

水深2,600メートルで、最大8,600メートルまで掘削し、地

球環境の変化や地震発生

のメカニズムなどを調べる。

左子教授らは掘削船

によるボーリングや海底

に設置した観測装置で、

地殻の中で循環する熱水

のサンプルを採取する。

高溫の環境下で生息する

微生物を調べることで、

生命進化の過程の解明や

高溫で利用できる酵素の

開発などが期待されると

いう。

# 地殻内生命を探求

統合国際  
深海掘削計画

東太平洋で開始へ

京大研究者ら参加

われる超好熱菌が、極限環境でなぜ生まれたのか、どんな生態なのか利用できる酵素の開発にも役立つ」と意義を話す。

IODPは日本を中心

に昨年十月に始動した大

規模計画。今春、欧州十

二カ国や中国も加わり、

十カ年で深海底を七、〇

〇〇メートルまで掘削し、地

球内部を探る。今後の調査

には、日本が建設費五百

八十億円を投入して来年

度完成を目指す世界最大

級の地球深部探査船「ち

きゅう」も使用する。

## 生物や地震など 海底の地下調査

京大が27日から

京都大は14日、日米欧など15カ国が参加した海底の地下を調べる国際プロジェクト「統合国際深海掘削計画(IODP)」の本格調査が27日から始まる」と発表した。

京大、東京大などの微生物や地震、地質の研究者など8人が参加。高温圧

の地下に生息し、生物の起源とも言われる「好熱菌」などを調べる。

京都大は14日、日米欧など15カ国が参加した海底の地下を調べる国際プロジェクト「統合国際深海掘削計画(IODP)」の本格調査が27日から始まる」と発表した。

IODPは昨年10月に10年計画でスタート。08年度には日本の海洋探査船「おきゅう」を投入、水深4,000メートルの海底から更に7,000メートルのマントル層まで調査する。

【野上哲】

## 海底微生物調査 京大教授ら参加 米などプロジェクト

米国や欧州などが参加して深海底を調査する国際研究プロジェクトの研

究航海に、京都大農学研

究科の左子芳彦教授(海

洋分子微生物学)らが参

加、27日に米国の港を出

发する。地殻内に生息す

る未知の微生物の調査が

目的だ。03年10月に始ま

った「統合国際深海掘削

計画(IODP)の一

環で、高温など極端下に

毎日新聞

2004年6月15日(29面)

ボーリングし、8月下旬

朝日新聞 2004年6月15日  
(28面)

米国調査船を使用。カナダ・バンクーバー沖の海底(水深約2,600メートル)から最大8,600メートル地下までボーリングし、8月下旬

から最大8,600メートル地下までボーリングし、8月下旬